

# サッカー競技者が考える理想的な指導者の資質

住田 尚規 (愛媛大学)

## 1. 目的

本研究では、育成年代のサッカー競技者を対象とした調査を行い、競技者が求める指導者の資質の構造を明らかにすること、さらに、チームの特徴や個人の競技レベルに着目し比較することで、競技者に合わせた指導を行うための知見を得ることを目的とした。

## 2. 研究方法

本調査の質問項目を設定するために予備的な質問紙調査を行ったうえで、本調査を行った。

1) 対象者：愛媛県内5校のサッカー部に所属している高校生140名

2) 調査時期：2019年12月

3) 調査方法：TSMIを用いて、調査対象者の競技志向性を問う質問項目を設けた。また、予備調査の結果に基づいて、理想的な指導者の資質に関する質問項目を作成した。KJ法により分類した7つの下位尺度に「教師としての指導者」を加えて、計8つの下位尺度（「指導者としての姿勢」「サッカーの知識・技能」「コミュニケーション」「言語力」「チームマネジメント」「ゲーム・トレーニングのオーガナイズ」「競技指導力」「教師としての指導者」）各5項目ずつ計40項目で構成し、各項目に対して4件法で回答を求めた。

## 3. 結果と考察

1) 高校入学後の公式戦出場経験による比較

「競技志向性」において、有意な差が認められ、「出場経験がある群」が「出場経験がない群」よりも1%水準で高い値を示した。公式戦出場経験の有無は、競技志向性に影響すると考えられる。

2) チームレベルによる比較

「ゲーム・トレーニングのオーガナイズ」、「教師としての指導者」において、有意な差が認められ、いずれも「上位群」が「下位群」よりも5%水準で高い値を示した。上位群の方が、サッカー

の専門性を重視している。また、「教師としての指導者」については、部活動、学校生活での規律の厳しさが影響していると考えられる。

3) 競技志向性による比較

「指導者としての姿勢」、「サッカーの知識・技能」、「コミュニケーション」、「競技指導力」、「教師としての指導者」において、5%水準で有意な差が認められた。多重比較を行ったところ、「指導者としての姿勢」、「サッカーの知識・技能」において、「上位群」が「下位群」よりも、「指導者としての姿勢」、サッカーの知識・技能、「コミュニケーション」、「競技指導力」、「教師としての指導者」において、「上位群」が「中位群」よりも有意に高い値を示した。また、すべての下位尺度で上位群が最も高い値を示したことから、競技志向性が高い競技者は、サッカーに関する知識・技能や部活動での指導に限らず、学校生活や人間性においても指導者に求める質が高いと考えられる。

## 4. 結論

競技志向性の高い競技者は、「指導者としての姿勢」、「サッカーの知識・技能」、「コミュニケーション」、「競技指導力」、「教師としての指導者」を理想的な指導者の条件として求めている。また、高いチームレベルで競技を行っている競技者は、「ゲーム・トレーニングのオーガナイズ」、「教師としての指導者」といった資質を指導者に求めていることが明らかとなった。

## 5. 参考文献

- 1) 長澤淑恵 (2017) ソフトボールにおける女子チーム指導者のコンピテンシーに関する研究. スポーツパフォーマンス研究, 9:15-26.
- 2) 神力亮太・萩原悟一・磯貝浩久 (2016) サッカー指導者の効果的なリーダーシップ行動-PM理論を援用した検討-. スポーツ産業学研究, 26(2):203-216.